



復刊90号

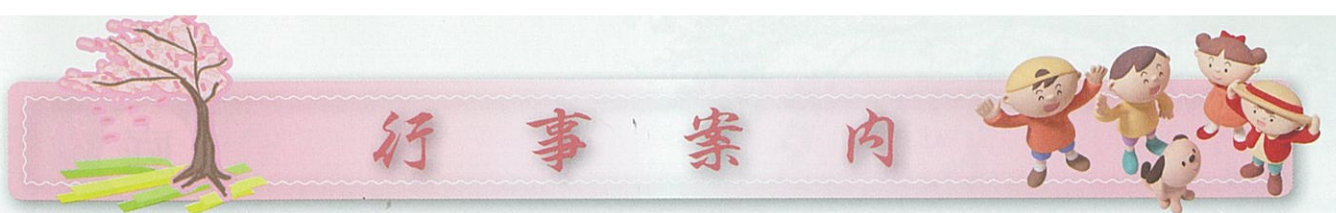
アナグマ

妙たえの光ひかり

冬眠の動物たちが目覚める春。昨年の秋境内に現れたアナグマが、また来てくれるのを心待ちにしている。住居の脇に野生の梨の高い木があって、秋口はその実をムササビが夜ごと食べにくる。晩秋のある日、地面に落ちて腐りかけた実を食べている動物がいた。屋根裏に入り込んで悪さするハクビシンかアライグマかと慌てて調べたら、昔から角田山にも生息するアナグマと分かった。

梨の実を食べつくしたので果物の皮を置いたら、夜行性のはずなのにほぼ毎日の午後やってくるようになった。ガラス越しに目の前で夢中に食べる姿が愛らしい。

「同じ穴のムジナ」という言葉がある。違って見えても悪い同類の意味。だがムジナという動物は存在せず、アナグマとタヌキが混同されているという。人を化かすと言われるタヌキが、姿の似たアナグマの巣穴を使うこともあるため話がややこしくなったらしい。



行事案内

春のお彼岸中日法要

- 日時：3月21日(土祝)
 - 午前10時半 安穩廟法要
 - 11時 春季彼岸会法要…本堂
 - 12時 おどき(どなたでも当日受付)
 - 午後1時 住職法話…大広間
- お彼岸は春秋二回、陽気も良くなり昼夜の時間が同じになるこの日、心の偏りをなくして仏様の教えを修行しましょうという古くからの行事です。お誘いあわせおでかけください。



春の一日研修

- 日時：5月24日(日) 午前9時～午後3時半
- 会費：4千円(昼食付)
- 申込み：5月14日までに電話、FAX、ホームページ連絡窓口から

初心者向けの研修会です。お経を読みたい、少しは意味を知りたいという方。数珠の持ち方からお参りの作法など、分かりやすくお教えます。堅苦しいことは一切ありませんのでお気軽にご参加下さい。初めての方と過去に1～2回ご参加された方向きです。



ご判さま

- 日時：4月29日(水祝) 午前8時半受付開始
- ※詳細は別紙「ご妙判」お大会のご案内をご覧ください。



身延山・七面山団体参拝旅行

- 日時：6月29日(月)～7月1日(水)二泊三日
- 募集人員：40名
- 後継住職予定、良恵沙弥りょうけいの信行道場修了式に参拝する総本山への参拝をいたします。
- ※詳細は別紙「団体参拝旅行のご案内」をご覧ください。

月例信行会

- 毎月第1日曜日 午前7時半～9時
- 会費：1,000円(各自賽銭箱にお願いします)
- 当日直接お寺へお越し下さい。お参り、法話、作務、朝粥の朝食、コーヒータイム等があり、交流の輪も広がります。

月例ボランティア

- 毎月15日 午前9時～11時半
午後1時～3時
- 昼食はご持参願います。



お寺でヨガ

- 夜コース(毎月第2土曜日) 19:00～20:15
4月11日・5月9日・6月13日
- 昼コース(第3木曜日) 14:00～15:15
3月19日・4月16日・5月21日・6月18日
- 参加費：一回700円
- 持ち物：ヨガマット、もしくはバスタオル
- 講師：ノリコさん
- どなたでも参加できます。予約制ですので、その都度電話等での参加申込をお願いします。



あとがき

妙光寺の新しい1年が始まりました。今号から新連載「良恵の修行日記」で、ご前様の長女良恵さんも『妙の光』にデビューしました。全9回の予定の連載です。読み逃さないように、ご愛読ください。今年も『妙の光』をよろしくお願ひ致します。(新倉理恵子)



インド仏跡巡りの旅



混沌の国インド

総勢24名の檀信徒による7泊8日、過酷な日程にも関わらず無事帰国できました。私にとって13年ぶりのニューデリーは、空港が近代的になり地下鉄もできて一見大きく変化していました。しかし地方では以前のままの混沌としたインドが確実に残っていました。

新たに整備された有料の国道2号線とのことです。路線バスは屋根まで人を満載し、外から窓枠にしがみついている人までいます。その上信号機がなく、我先に交差点に突っ込む車で大渋滞です。さらに料金を払いたくないトラックが料金所を迂回し、本線に合流するところでまた渋滞。痺れを切らした車がどんどん逆走して、すれ違いでまた渋滞というありさまでした。

予定時間など全く当てにならず、目的地に到達できずにキャンセルする事態も。そのため現地風に男女ともに青空トイレになり、暗がりでの糞を踏むウンの付いた人まで。こうしたハプニングのたびにバスの中は大爆笑。「こんな旅初めて！」と興奮に包まれました。

霊鷲山に吹く風

りょうじゆせん

3日目、ようやくたどり着いた霊鷲山の入口は各国からの参拝者目当ての物売りや、物乞いで相変わらずの賑やかさでした。バスを降りて山上までの登り道を30分ほど、妙光寺の小旗を先頭に持参した団扇太鼓を叩いて進みます。しだいに物売りの姿は減り、右手眼下には緑の森が開け、左手の岩山にはサルが戯れています。2500年前、この地で晩年のお釈迦様が『法華経』を説かれ、未来までも語り続けると遺されました。この山は私たち法華経信仰者にとつての聖地であり、死後の行き先と言われる霊(鷲)山浄土です。

先着のタイからの団体に続き、全員で線香を供え読経し、「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えました。隔てるもののない山の上なのに、チーンと鳴るりの音が静かに響き、お経の音が耳にしっかりと聞こえます。やわらかい風がフワ〜と頬をなで、お釈迦様に包まれている実感がふつと湧いてきました。下山の道すがら、皆さん口々に「こんな感動初めて」「登り道がきつくて途中で止めようかと思っただけど、行つて本当によかった」とおっしゃっていました。

生と死を想う

4日目のヒンズー教の聖地バラナシでは早朝、毎日国内各地から集まる信者によるガンジス川での沐浴を見学しました。ヒンズー教徒は、死後ここで火葬されて川に流されることを最高の喜びとします。

ここで『死を待つ人の家』の訪問が許されました。老後に家族と離れてこの地で暮らし、最期を待つ人のための施設です。80代の女性は「今の暮らしに満足し死後に何の不安もない」と淡々と語ります。同行した娘の良恵に老婆のひとりが「あなたが幸せでありますように」と、頭に手を添えて祈ってくださいました。小さな窓だけの牢獄のようにも見える建物でしたが、きれいに掃き清められ、異臭もありません。清潔感さえ漂う室内に皆感動して、朝食の宿に戻りました。わずかな体験ですが、混沌と、仏様の境地と、生と死を想う一端に触れたと思います。

東京で3代

博之さんの祖母ヤソさんは、昭和初期に角田浜から単身上京し、配置薬『毒消し』を背負い関東一円を行商に歩いた。苦勞の末、故郷に繋がる上野駅に近いここに土地を求めた。当時角田浜周辺では、こうして出稼ぎで家族を支える女性が多かった。

次の代の茂さん京子さん夫妻は力を合わせて一大工から大滝工務店に事業を拡大、この土地にマンションを所有するまでになった。

転居したこちらのお宅へ毎年7月のお盆に住職が何うと、ヤソさんはじめ家族皆さんで心待ちにして歓迎いただいた。

昭和54年にヤソさんが、その後茂さんに続いて京子さんも亡くなる。苦勞がしみ込んだマンション1階の作業場が葬儀式場だった。下町らしく多数の町内の人たち、新潟から、さらに関東に移住した親戚も集まり、人望の厚さが伺われる葬儀だった。

今、博之さんと弟さんが工務店を引き継ぎ、昔からの職人さんとともに切り盛りする。浅草神社の出入り職人にもなっ

て、三社祭では重役を担う。妻の浩美さんの生家も浅草寺出入りの庭師であり、江戸娘らしい爽やかな気質。2年前鎌倉円久寺での良恵沙弥の得度式、続く身延山の妙光寺開創700年大法要にも夫婦で出席された。忙しくても夏には角田浜の家を開け、妙光寺にあるお墓に詣でるのが家族の年中行事だ。

妙光寺東京出張所

ある年、住職の双子の娘が東京の大学に進学を希望し、住まいさがしに困っていた。お盆の席で話題になり「ちょうど3階が空いているからぜひ使ってください。家賃は半額、敷金だのなんだの一切なし」兄弟そろって言ってくれた。それでも交通至便な一等地。「妙光寺東京出張所にして、家賃を妙光寺と住職個人が折半すればいい」と会計士に助言された。

双子の通学拠点であるとともに、住職の関東地区でのお盆や葬儀法事の際の宿泊、さらには檀徒の方の相談事、一時期殺到したマスコミの取材対応、造園や建築設計士等との協議に使用。ときには勉強会で九州から上京した後輩僧侶たちが雑魚寝で泊まることもあった。

この3月、良恵沙弥が大学聴講を終えて新潟に戻るのを機に、経費削減も考えて閉鎖することにした。フル稼働、大活躍の妙光寺東京出張所の10年だった。

最初に破格の家賃で貸していただくことになったときの大滝さんの言葉が忘れられない。「亡き親父に、何があってもお寺は大事にしろ。粗末にはならないぞって言われています。僕たちもご前様に使っていただいて光栄です」と。

(小川住職記)



元妙光寺東京出張所の大家さん

東京都台東区千束

大滝博之さん(56歳)

浩美さん

若者がみつめた妙光寺



後藤早紀さん

後藤早紀さんは、ご前様の友人である大分市・妙瑞寺の菊池泰啓住職の姪にあたります。卒業論文のテーマとして妙光寺を選び、昨夏の『送り盆』に調査に訪れました。無事に論文を書き上げて、今春大学を卒業します。卒業論文のタイトルは『生』を支える寺―妙光寺25年の歩み―です。現代の若者の目に、妙光寺はどんなふう映ったのでしょうか。

後藤早紀さん(22歳)
早稲田大学文化構想学部社会構築論系4年生。専攻は「共生社会論」。4月からは自動車関連のメーカーに就職が決まっている

―妙光寺をテーマに卒業論文を書いた大学生に聞く―

卒論で妙光寺を取り上げようと思ったのは、なぜですか？

後藤 私の伯父、菊池泰啓が大分で住職をしています。妙光寺の小川住職とも親しくさせて頂いていて、伯父の寺にも「安穩廟」があり、そこに祖母の墓があって、いつもお参りに行っていました。墓石には「二人にちは」と彫ってあります。「安穩廟」には、よそのお墓にはない温かさがあるなあと思っていました。

卒論のテーマを決める時になって、「安穩廟」が少子高齢化社会にいち早く対応した特別な墓だということを知りまし

た。それで伯父に相談して、永代供養墓をテーマにしようと思ったんです。

最初に東京町田市・エンディングセンターの桜葬も見学に行ったそうですね？

後藤 3月の「桜葬メモリアル」(桜葬の供養祭)に、スタッフとして参加させて頂きました。実はそれまでは、「安穩廟」も「桜葬」も、後継者不要の墓だという仕組みの点からしか見ていなかったんです。ところが、桜葬の交流会で「私たちは、墓がお隣の墓友(はかとも)の」と言う方たちに出会って、墓の問題が人と人のつながりの

核になっていくことを知りました。妙光寺は伯父の寺にある「安穩廟」のルーツの寺である上に、25年前の「安穩廟」開設時から毎夏フェスティバル(送り盆)を行って、人の交流に力を入れていると知って、ますます妙光寺に行こうと強く思いました。

初めて妙光寺に来たのは、昨夏の『送り盆』ですね。どうでしたか？

後藤 初めて来たのは、「送り盆」の前夜祭の日でした。もう、びっくりです。ボランティアスタッフの皆さん自身が、楽

しんでいて。檀徒さんや会員さんや僧侶の方や、それぞれ立場が違うのに「送り盆」を成功させたいということまで一致して団結していることに驚きました。

送り盆当日は、いかがでしたか？

後藤 私は、山門の受付係をお手伝いしました。それで、あの山門から入ったと

確かに、自分のためにお寺に通って、今はボランティアスタッフをしているという人は多いですね。

後藤 自分の技能を活かしながら関わっている人が多いのは、感心しました。ロウソク作りは元歯科技工士さんで、司会は元アナウンサーの方。新倉さんも国語の先生です…。

送り盆の後は、どうやって論文をまとめたんですか？

後藤 実は、あの後もお寺に数日滞在したんです。ご前様に「これじゃ書けないよね。もう一泊する〜」ありがとございますー」となって。それで、お寺の一室で25年分の『妙光』をすべて読んで、必要なところはスマホで写真を撮りました。ご前様にも、何度も質問させてもらいました。「今は、質問の仕方が悪い。聞きたいことがはつきりしてない」と叱られたりして。それで、東京に帰ってから、妙光寺の25年を表にしてみました。もう、そのころは論文になるのかどうか不安だったし、毎日食事は一回だけで、食べる暇も惜しんで頑張りました。

私も『送り盆』で話した時、これまでとめられるのかな、と心配でした。

後藤 結局、最初は少子高齢化時代に必

要な墓だと思って、「安穩廟」のシステムをさぐるうと思っていました。でも、そこにある人と人のつながりが重要ななだということがわかってきて…最初の見通しと違う方向になっていったので、大変だったんですね。

表にまとめたなら、方向性が見えたんですね？

後藤 そうなんです。論文では、25年間の4期に分けました。第1期は、最初の10年です。この時期は家族以外の人たちとの助け合いのあり方が重視されています。そして本堂改築のところが第2期です。10年間の積み重ねの上で、本堂を核として新たに生きた仏教を発信しようとした時期です。そして生前契約を始めて京住院を再建したところが第3期。終活ノートを作ったこの2年間を、第4期と考えてみました。

論文の題名は「生」を支える寺―妙光寺25年の歩み―となっています。どうしてこの題名にしたんですか？

後藤 題名は、かなり悩みました。私の中では、サブタイトルとタイトルが同じ重みがあって、二大タイトルという感じです。

論文をまとめ終わって、今の感想はいかがですか？

後藤 今の世の中は、お金があれば何でも妙光寺では、それとは真逆の「人とつながり」に重きが置かれています。その中心にいらつしゃるのが小川英爾住職です。膨大な労力を要する「送り盆」の運営を、困難を乗り越えて25年間続けてこられたことは、本当に素晴らしいと思います。

有難いことに、教授からも良い評価を頂きました。でも、それ以上に自分の人生の中で大切なものができた、と実感しています。

または非妙光寺に来てくださいな。ありがとうございました。

(聞いた人 編集部・新倉理恵子)

その中で、いろいろな人たちに話を聞いてまわっていましたね。

後藤 たとえば、お茶の先生をなさっている方のお話をうかがいました。最初は普通の会員さんで、お墓参りに来たりしていらした。でも通ううちに、お寺に愛着が湧いてきて、この緑に囲まれた境内が心地よくて、今はお茶席のブースを担当されている。最初は自分自身のためにお寺に来ていて、今は皆の役に立っている。まさに「自助」から「共助」だと思いました。妙光寺の「心洗われる」雰囲気、皆さん愛着を感じていました。そして多くの方のお話を聞いて、妙光寺が墓に入るまでの期間を充実させる寺として皆さんの心の拠り所になっていると思えましたね。



ガンジス川の夜明け。ヒンズー教徒は昇る朝日の中で沐浴をします。

『死を待つ人の家』で老女は淡々と語ってくれました。



ミニタジマールと言われるビビ・カ・マクバラ廟の観光。

雪の降る境内で…

妙光寺の美しい庭はこうして造られています。



冬場でも樹木の手入れを欠かさない松本さん。

檀信徒インド仏跡の旅

2月18日(水)～25日(水)

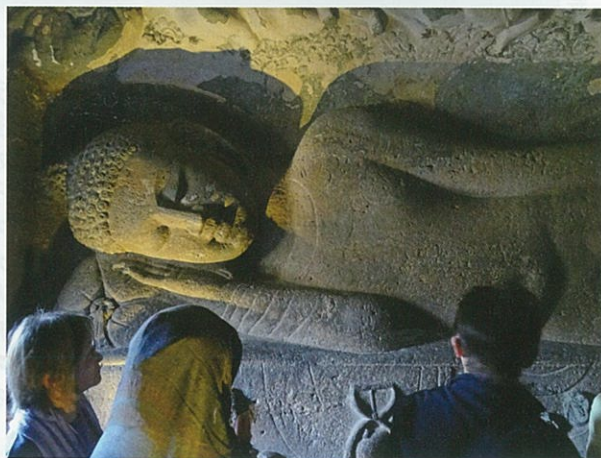
インドにお釈迦様の足跡を訪ね、住職以下24名の旅が無事行われました。



『法華経』が説かれた霊鷲山での法要は感動的でした。



お釈迦様が悟りを開かれたブダガヤの中心、大菩提寺で。住職が特別に戴いたカタを巻いています。

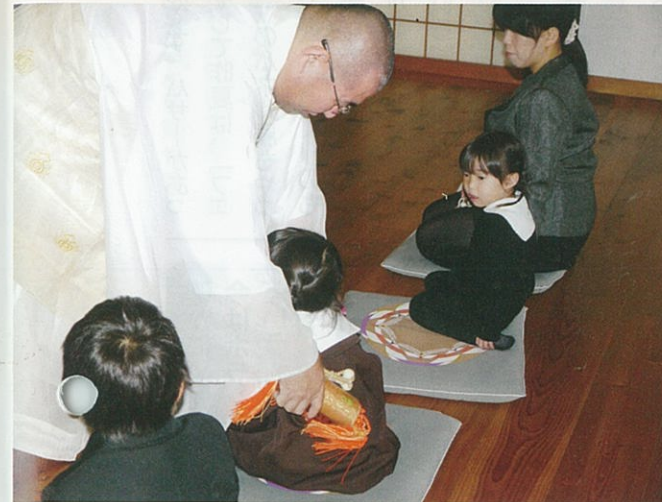


世界遺産アジャンタ石窟の涅槃像

寺のうごき冬

お寺で七五三

昨年、希望で行った七五三参詣が好評でした。今年は11月15日(日)に予定しています。



健やかな成長を祈る、七五三の加持祈祷。

平成27年・正月

大晦日は大荒れで強風。お焚き上げもままなりませんでしたが、そんな荒天の中でも例年通りの参拝者で、用意した記念の銀杏や福引は足りないほどでした。

明けて元旦は天気も落ち着き、多くの檀徒さんがお年始に訪れました。三世代そろってのお詣りも多いお正月です。恒例となった初釜のお茶席も人気でした。



元旦には、小川住職が大広間で皆さんをお迎えます。子どもたちにはお菓子、大人にはお酒の用意も!

お寺でディナー1月21日(水)

地元の割烹と三条市のレストランの若きシェフが妙光寺で夕食会を企画。和食とイタリアンのコラボレーションで、見事なお料理が並びました。予約のお客様は初めて妙光寺を訪れたという方たちばかり。妙光寺はさまざまな企画にお寺を開放しています。



お寺の台所がプロの厨房に。大広間はレストランに変身!



紅葉の境内でパチリ! おいちゃんのお墓にも掌を合わせ南無南無…



人事異動

住職の長女小川良恵沙弥が、大学の聴講と鎌倉での基礎的修行を終え、3月1日から常勤します。今後は6月の身延山での35日間の修行を経て、後継住職として研修を積んでいきます。

佐藤上人は予定の1年間の勤務を終えました。更に妙光寺で経験を積みたいとの希望で、継続して勤務することになりました。

ともよろしくお願いします。



檀徒用安穩廟の完成

檀徒からお墓があつても後継者がいない等の相談が増え、檀徒用安穩廟の設置を進めてきました。業者の都合で遅れましたが、4月中には完成の見通しです。これまでの墓石と遺骨を移転して、一か所に集約する形式にしました。詳しくはお問合せ下さい。

「浄土基金」報告

妙光寺の浄土化計画は「人と人の繋がり」の仲立ちとなり、生きる上での問題解決の知恵を生み出す修行と、浄土を身近に感じることのできる空間の創出と維持を目指すことを目的にしています。

この費用を計画的かつ継続的に捻出するため、檀徒を始め幅広く寄付を募る受け皿が「妙光寺浄土基金」です。今回は客殿屋根改修工事に充当し、今後は経理を含めた運営の見える化、住職交代に向けた準備等々を進めます。

3月9日現在の申込総額45,938,384円、入金総額36,097,384円、客殿屋根工事支出25,268,000円です。ご協力お礼申し上げます。

ご送金口座 第四銀行西川支店 『宗教法人妙光寺』 普通 1187385

1日研修(初心者向)

お経や仏事に関心があるが何から始めたらよいかわからないという方に。数珠の持ち方から、初めてのお経等々

話上誌

信心と宗教

小川英爾



「或いは火のごとく信ずる人もあり。或いは水の如く信ずる人もあり。(中略)水のごとくと申すはいつも退せず信ずるなり」

日蓮聖人『上野殿ご返事』

素朴な信頼関係

毎月の命日に寺からお経に伺うことを『月回向』といい、妙光寺でも多くのお宅に伺っています。県内のあるお寺の酒好きな老住職は、村内を徒歩での『月回向』回りが日課でした。その日あるお宅が不在で、仏壇の前にはお布施と脇に1杯のコップ酒がお供えしてありました。「留守にしますがお経の後で飲んでください」という心配りです。

夕方そのお宅からお寺に電話がありました。奥様に「ご住職今日来ていただけたのですよね？お酒のコップは空でしたが、お布施は置いたままでしたので…」事態は想像いただけると思いますが、実話です。

鍵を掛けずに留守にして仏壇にお布施が置いてあるお宅は、農村部では今でも普通にあります。世知辛い世の中で空き巣も考えず、お布施を置きっぱなしという、素朴に人を信ずる行為に心がなごみます。

なじみにくい宗教という言葉

一般に使う『宗教』は「宗とすべき教え(根本となる教え)」の意味ですが、明治時代に英語のレリジョンを訳した言葉です。それは一神教ユダヤ教、キリスト教、イスラム教などを指す言葉なので、日本ではなじまないから変えるべきだという議論が研究者にあるそうです。

確かにオウム事件以降、特に宗教というと狂信的なイメージがわいてきます。昨今の一部イスラム教過激派の言動とも結びついて恐怖心すら伴いかねません。

前述の素朴な信頼関係を、イメージしてみましょう。母と子の間には自然に信が育ちます。夫婦間は愛情だけでは駄目で、信頼関係があってこそ長続きするものではないでしょうか。お互いの努力で信頼関係を築く、ここから生きる力が生まれます。

もともとは『信心』だった

明治以前は「自分の心に何かを信じる」というところから、信心といわれていました。日蓮聖人も「信心は特別なことではなく、妻が夫を愛し、夫が妻に命を惜しまぬように、親子が育み離れないようなもの。この関係のように、真心こめてお題目を唱え祈ることが信心だ」と遺されています。

そして冒頭のお言葉では、「説法を聞いた直後に火のように熱心になる人は冷めやすい。水のように信じる人は退転することがない」と説かれました。

「私は無宗教です」と言う前に、まずは人を信頼する、信頼される関係のなかで育まれる信心を基本に据えて、悩み苦しんだとき私の心の拠りどころは?と考えてみてください。そこに応えられる妙光寺でありたいと考えています。

を指導するお一人でも心配のない気軽な研修会です。5月24日㊤、詳しくは行事案内のページで。

昔の写真ありませんか!?

「最近の妙光寺はきれいになったが、昔も懐かしい」という声が聞かれます。そこで「妙光寺、こんな時代もありました」という写真展を計画中です。



昭和29年9月1日「日蓮聖人立教開宗700年法要」

「送り盆」日取り決定

今年の送り盆を例年より早めの8月22日㊤とします。ご予約ください。今年は皆さんのお手伝いもお願いしたいと思えます。

元気なうちから戒名を

今年の「法号授与式」は11月8日㊤の予定です。9月に詳細ご案内します。

「ラジオ深夜便」雑誌

福祉ジャーナリストで元NHK解説委員の村田幸子さんが、2月22日朝のNHKラジオで安穩廟の紹介をされました。さらに3月18日発売の雑誌「ラジオ深夜便」4月号でも「老いの暮らしを創る」と題して掲載されます。

「ありがたいな」 小川なぎさ



良いお天気のある日

お正月が過ぎ、節分も過ぎて確実に暖かい季節が近づいています。嬉しいですね。冬の間いかがお過ごしでしたか？

1月のめずらしく良いお天気のある日、自転車で一時間かけてお墓まいりとお年始に見えた女性と楽しくお茶をのみながらお話ししました。いつもニコニコと笑っていて、物静かな話しぶりの方です。長いお付き合いのある檀徒の方は私の未熟な頃を知られているので気張らなくてよいし、気楽です。とてもお寺を大事に思ってください、信心深く、昔の話をお聞きするのが楽しみです。「ご前様は遠い存在になってしまったような気がする」とおっしゃるのですが、それが否定的ではなく、むしろ喜んでくださっているように感じます。

旧来の檀徒の方々是一家何代にも渡って寺を支え続けてくださっています。現代の考え方からすれば、信仰は自由だし、寺を変える自由もあります。婚家の菩提寺というだけで、家の宗派の信仰を強要される檀家と菩提寺の関係は、見方を変えればひどいことのように思えます。一方ではそれが、婚家になじみその家族の一員となるためのステップのようにも思えるのです。

反対に新しい安穩檀徒は自分の意思で信仰と寺を選んで下さいました。この方々に対する感謝の気

持ちは忘れません。寺の基盤が強固になりました。「お寺に行くのが楽しみです」と言っただけのは本当に嬉しいです。

お寺の安心感

お寺がいつでもそこに存在しているという安心感、いつでもだれでも「ようこそ!!」と迎えてくれる仏教の世界。お寺をちゃんと守らなくては! と肩に力が入り辛くなることもたくさんありました。最近なんかもっとゆったりと「ここでお待ちしています」と気楽に思ってもいいのかなと思います。「皆さんのお寺はみんなで守ろうね!」それが一番大事なことでしょ。

今年度は娘のリョウケイが寺に戻ります。色々な変化もあるでしょう。変化してゆくのは楽しいことでもあり、怖いことでもあります。でも皆さんがいるから心配はありません。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

先の女性が帰り際に玄関で帽子の上にさっとかぶったもの、あまりにもそのアイデアとデザインがありがたかったので、写真をとらせてもらいました。開創700年記念の手ぬぐいでつくったかぶり物です。

うふふ。



質問

檀徒と安穩会員の違いを教えてください。

妙光寺檀信徒会 組織図 ※金額は年会費

妙光寺檀信徒会	
信徒	檀徒
(葬儀依頼不可、寄付の義務無、帳簿閲覧不可)	(葬儀依頼可、運営費負担、帳簿閲覧可能)
安穩会員	正檀徒 (墓地所有者で、いわゆる従来からの檀家・10,000円)
安穩正会員 (安穩廟契約者・3,500円)	準檀徒 (墓地契約者だが現在墓は無し・10,000円)
安穩準会員 (安穩廟未契約で情報希望者・3,500円)	半檀徒 (古い習慣で、他宗派の檀家でもある。半分ずつ檀家の意味・5,000円)
安穩将来会員 (安穩廟契約者の継承予定者・無料)	安穩檀徒扱 (安穩廟契約者で檀徒希望者・10,000円)
安穩非埋葬会員 (安穩廟継承したが、今後の予定無し・3,500円)	安穩従来檀徒 (従来からの檀徒で安穩廟契約者・10,000円)
一般信徒 (他寺院、他宗派に所属し、妙光寺に墓地を持たない信仰上の関係・無料)	将来檀徒 (正檀徒の墓地継承予定者・無料)
	アドバイザー (妙光寺の活動を理解し、助言支援を提供する僧侶、各種専門家・無料)

一般に言う「檀家」という言葉は法律上にはなく、檀徒と信徒を合わせた「檀信徒」となっています。妙光寺ではこれに従い、檀徒とは「妙光寺の教えを信奉し、葬儀その他の法要を住職に委託する人で、寄付を含めた運営費を負担する個人(家族)のこと」としています。信徒は「妙光寺の教えを信奉し、一時的に葬儀以外の法要を委託する人で、ときに寄付を行う個人(家族)」と規定しています。

図にあるように、安穩会員は妙光寺の儀礼で行う永代供養を委託するお約束をしていますので、原則として信徒になります。

良恵の修行日記

第1回 よろしくお願ひします

2年間、東京にある宗門の大学で勉強し、この2月に戻って参りました。住職の長女の良恵です。

行事の折には帰省し、皆さんに顔見せもさせて頂きましたが、こうして「妙の光」でご挨拶が出来ることを嬉しく思います。どうぞ「リョウケイ」と呼んで下さい。……とは言いつつ、子供の頃から知っている檀徒さんから見れば、まだまだ「ヨシエさん」かもしれません。それが嬉しくもあり、恥ずかしくもあり……。これからはずっとお寺におりますので、幼い私をご存知の皆様も、これまであまりお会いできなかった方も、改めてよろしくお願ひいたします。



大滝総代と元目の大広間にて

22歳で大学を卒業し就職のために上京した8年前には、まさかこんな形でUターンすることになるとは、まったく考えておりませんでした。新潟の寒さを思い出すまではしばらくかかりそうです。楽しいお寺にしたいです。良い形での出戻りになれるよう、頑張ります!

小川良恵